

アンケート結果

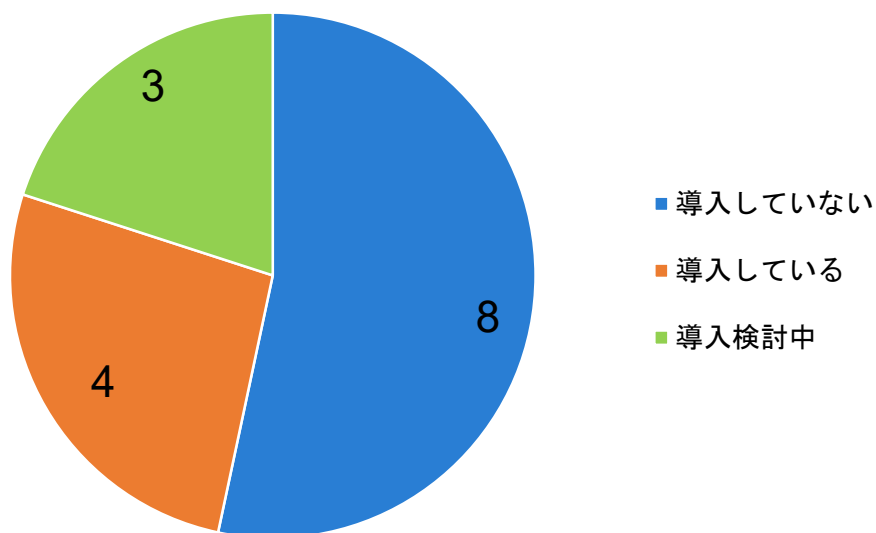
2025.1.29

第21回小児がん拠点病院連絡協議会

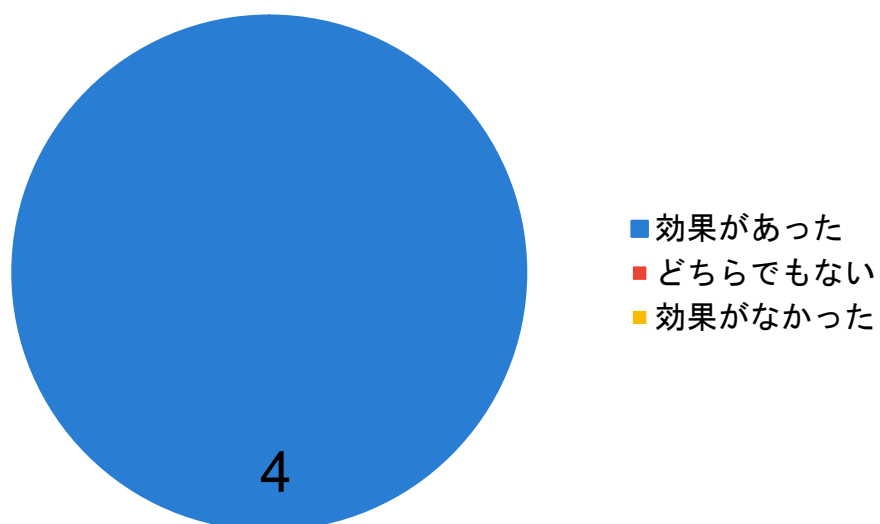
問1.

患者支援について(ファシリテイドッグ)

1) ファシリテイドッグを導入していますか



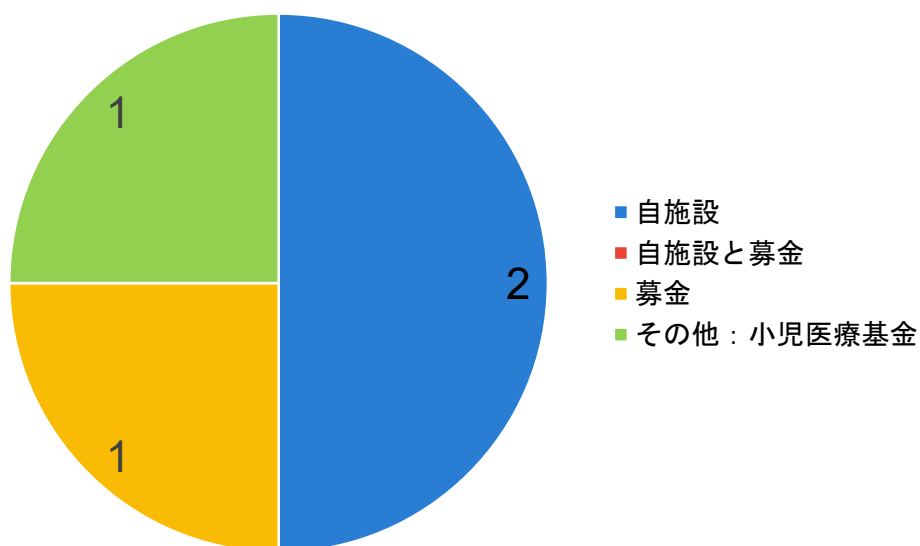
2) ファシリテイドッグを導入し効果がありましたか



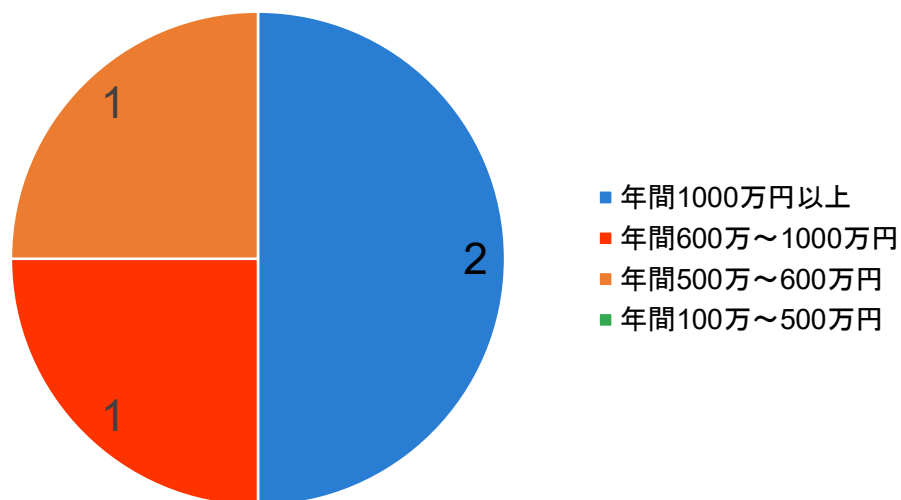
3) 効果があった理由

- ファシリテイドッグと一緒にあれば処置や手術へ向かえるという患者の声が届いている。
- 苦痛を伴う検査や手術でもファシリテイドッグの存在により自ら行う決断ができるようになった。
- 検査やリハビリも頑張るようになった。
- 検査や治療に前向きに取り組めるようになった。
患者さんのみならず医療従事者の癒しとなっている。

4) ファシリテイドッグの導入かかる費用負担について



5) ファシリテイドッグの導入かかる年間費用額について



6) 導入していない理由や、検討にあたって障害となる ことがありましたらお答えください

- アレルギーを含めた安全面、感染症対策などについて各部署との協議が必要となるため
- 感染管理やスペースの問題等
- 感染対策の点で、了承が得られないため
- 病院、病棟の理解を得ること、費用面、調整スタッフなど
- 導入を検討した時期に問い合わせをしたところ『新規受付は行っていない』と回答があった
- 高額であったことと、コロナ対応で検討できなかった
- 最大の障害は巨額の費用で、全額寄付で賄えなければ導入できない。
また、事務方や看護部の仕事が増えることに対する警戒感も障害となっている。
- 導入経費の負担
- 導入費用が大学病院負担となるため。
- 予算の確保

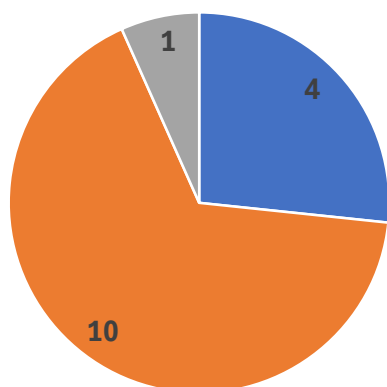
問2.

患者支援について

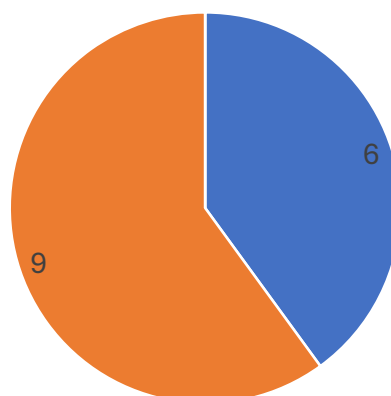
(クリニクラウン・ホスピタルクラウン)

1) 導入状況について

2-1-1)
クリニクラウンを導入していますか



2-1-2)
ホスピタルクラウンを導入していますか

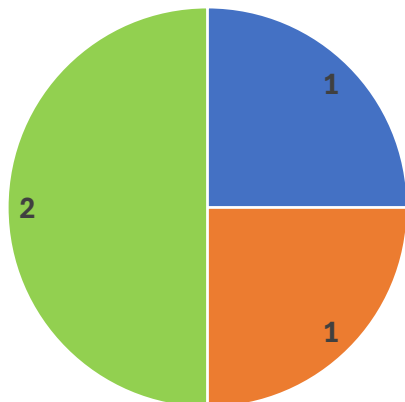


■ 導入している ■ 導入していない ■ 導入検討中

どちらも導入している施設 : 1施設
どちらも導入していない施設: 6施設

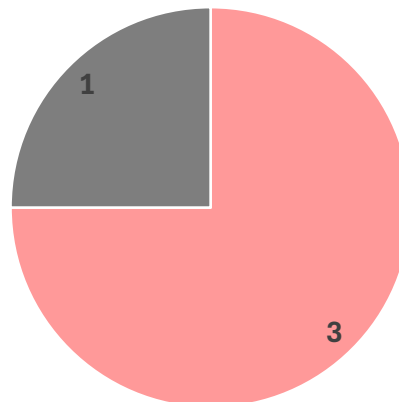
2) クリニクラウンを導入している施設の訪問頻度について

2-1) 病院への訪問頻度



■ 年2~3回 ■ 2か月に1回程度 ■ 月1回

2-2) WEB訪問頻度



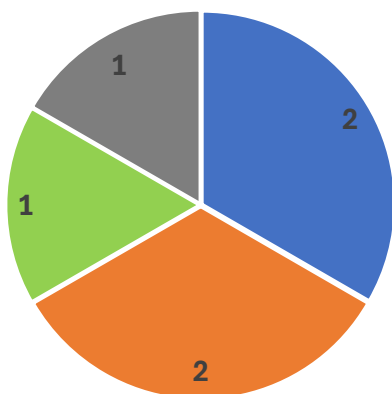
■ WEB訪問はしていない ■ その他

その他

基本的に病院への訪問だが、イベントをWEBで実施することがある(令和6年度は1回のみ)

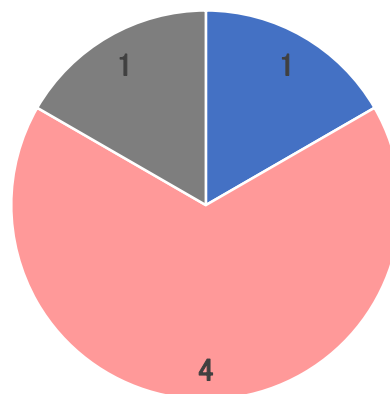
3) ホスピタルクラウンを導入している施設の訪問頻度について

3-1) 病院への訪問頻度



■ 月1回 ■ 月2回 ■ 2か月に1回程度 ■ WEB訪問はしていない ■ その他

3-2) WEB訪問頻度

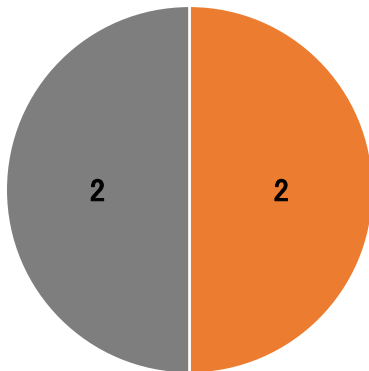


その他

定期的な病院訪問は、コロナ禍以降ストップしたままだが、クリスマスの時など単発でクラウンショー(対面)を開催していただいている

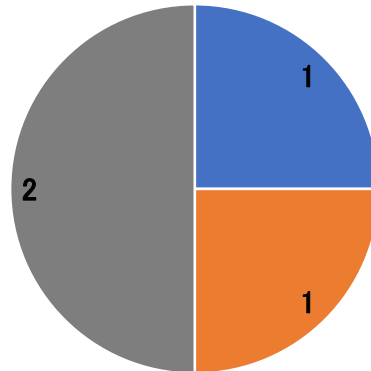
4) クリニクラウンの費用について

4-1)費用負担



■ 自施設と募金 ■ その他

4-2)年間費用額



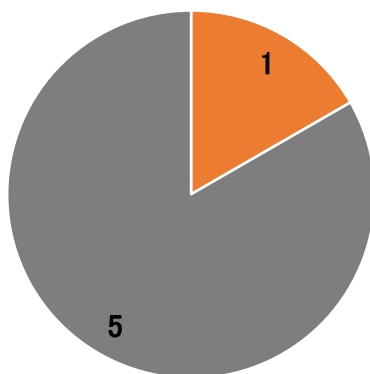
■ 年間1万~5万円 ■ 年間6万~10万円 ■ その他

その他

- ・費用負担なし
- ・小児がん拠点病院のお金(交通費のみ)

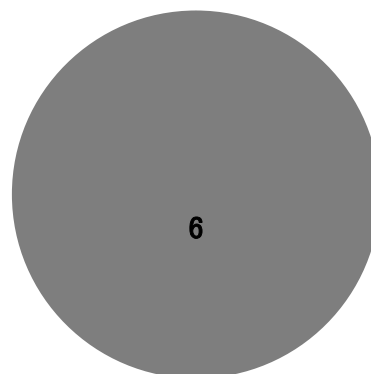
5) ホスピタルクラウンの費用について

5-1)費用負担



■ 募金 ■ その他

5-2)年間費用額



■ その他

その他

- ・費用負担なし
- ・小児がん拠点病院のお金(交通費のみ)

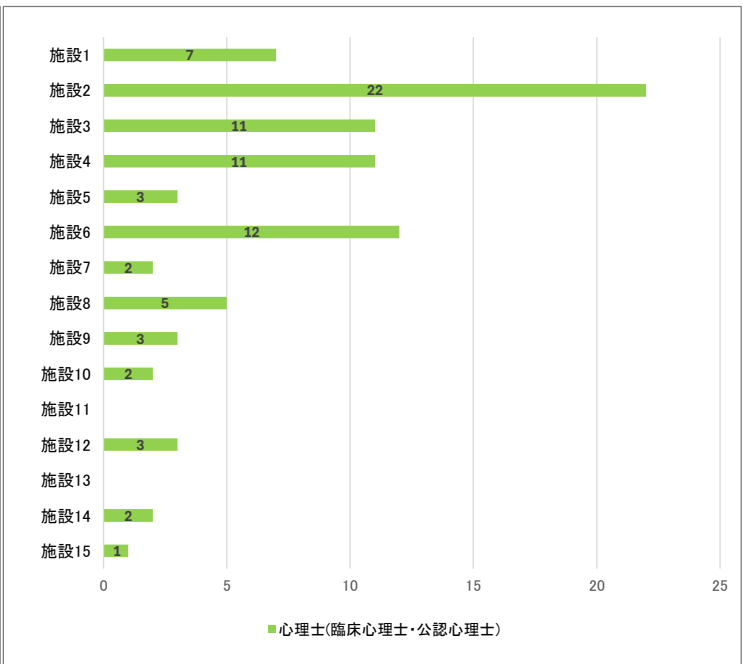
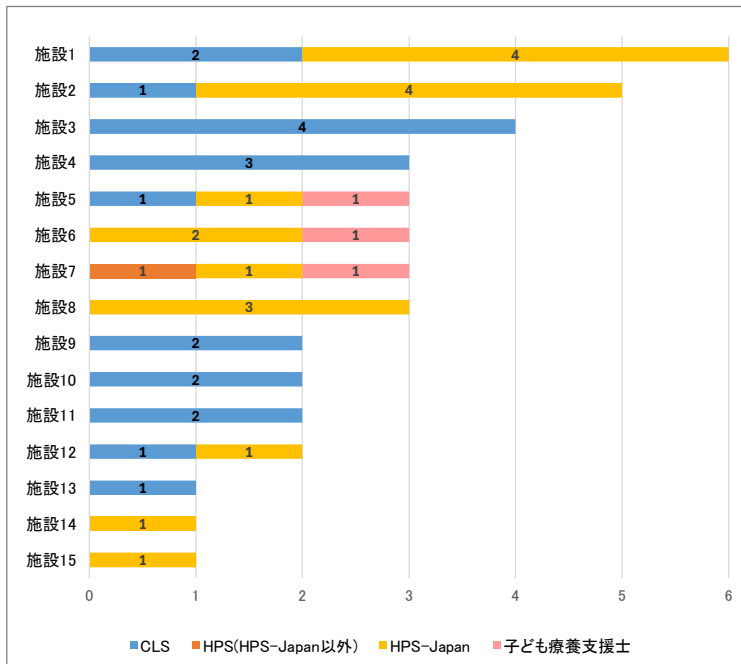
患者支援について、ファシリテイドッグ、ホスピタルクラウン、クリニックラウンの他に活動していることがあればお答えください

- ・中部テレコミュニケーション「げんきのまど」の訪問
- ・三重大学学生ボランティアサークル「ぞくよん」の訪問
- ・小児病棟父母の会「ひだまりの会」の訪問
- ・ベビーマッサージ 1回/月
- ・キープママスマイリングという団体からの付き添い家族への物資提供支援 不定期
- ・長期入院の子どもと付き添い家族を支える会より無償提供弁当 7~8回/月
- ・きょうだい支援、高校生の学習・復学支援、入院中のAYA世代患者への支援、外部団体と連携してのイベントの開催(オンラインイベントの開催、ご当地ヒーローやキャラクター、ゆるキャラの訪問イベント)を行っている。
- ・『ハートフルカート』入院患者と付き添い家族を対象に、病院へ寄付いただいた日用品やおもちゃをプレゼントする活動を行っている。
- ・ボランティア団体にこにことまとさんのイベントを週1回開催
- ・工作や読み聞かせのボランティアさん、コンサートやプラネタリウムなどのイベント、季節ごとの病棟行事、きょうだい会や家族会、その他外部団体と連携したイベントやプレゼントの配布など、その他多数
- ・ドナルド・マクドナルド・ハウスのハートフルカート(月2回)
- ・こどもホスピスでの患者支援、教育大学生による学習支援、勇気のビーズプログラム、完全非公開型医療介護専用SNS上での患者交流
- ・緩和ケアサポートチームやAYA支援チームなどの活動
- ・ボランティア活動(フットサル、医療者ボランティア等)
- ・ボランティアの方々による患者および付き添い家族支援(ミール支援など)については積極的に介入をお願いしている。また、高校生については、医学部生による学習サポートを行なっている
- ・患者サロン、交流会

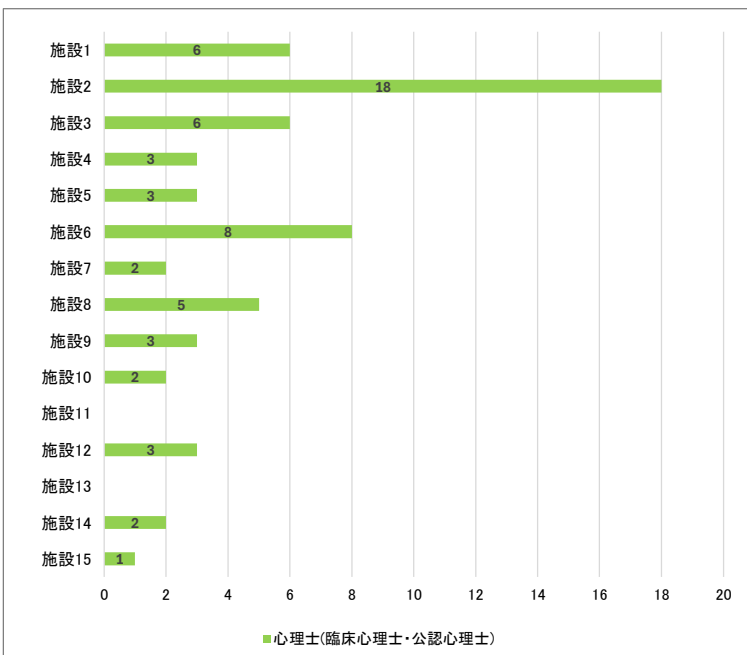
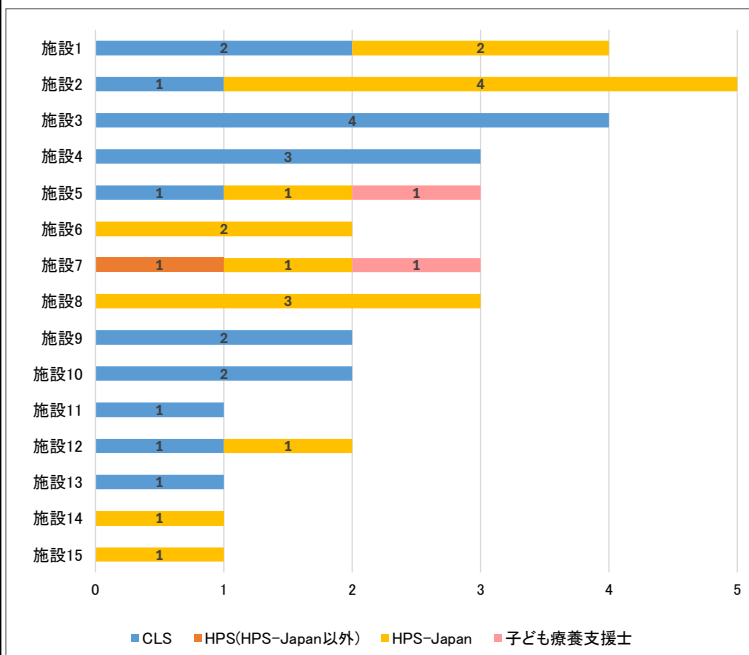
問3.

療養支援担当者について

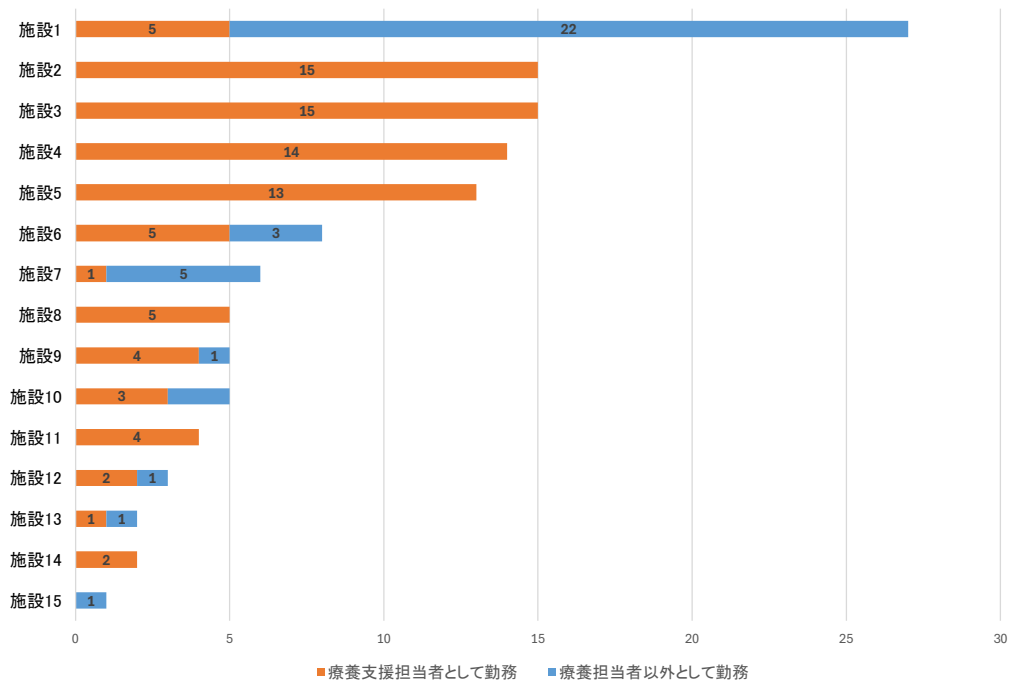
1) 療養支援担当者数(常勤+非常勤)



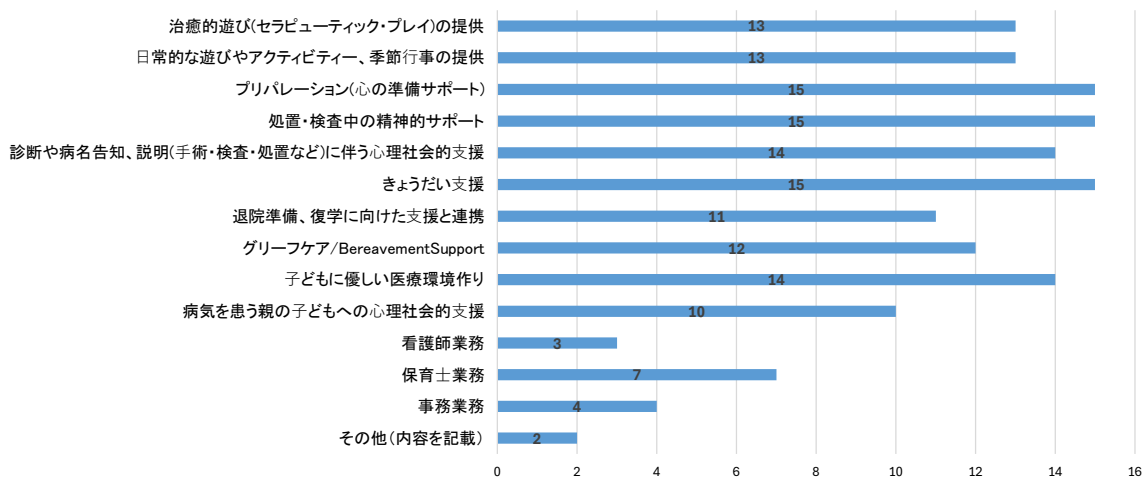
2) 療養支援担当者数 (常勤のみ)



3) 療養支援担当者の雇用形態の内訳



4) 療養支援担当者の業務内容

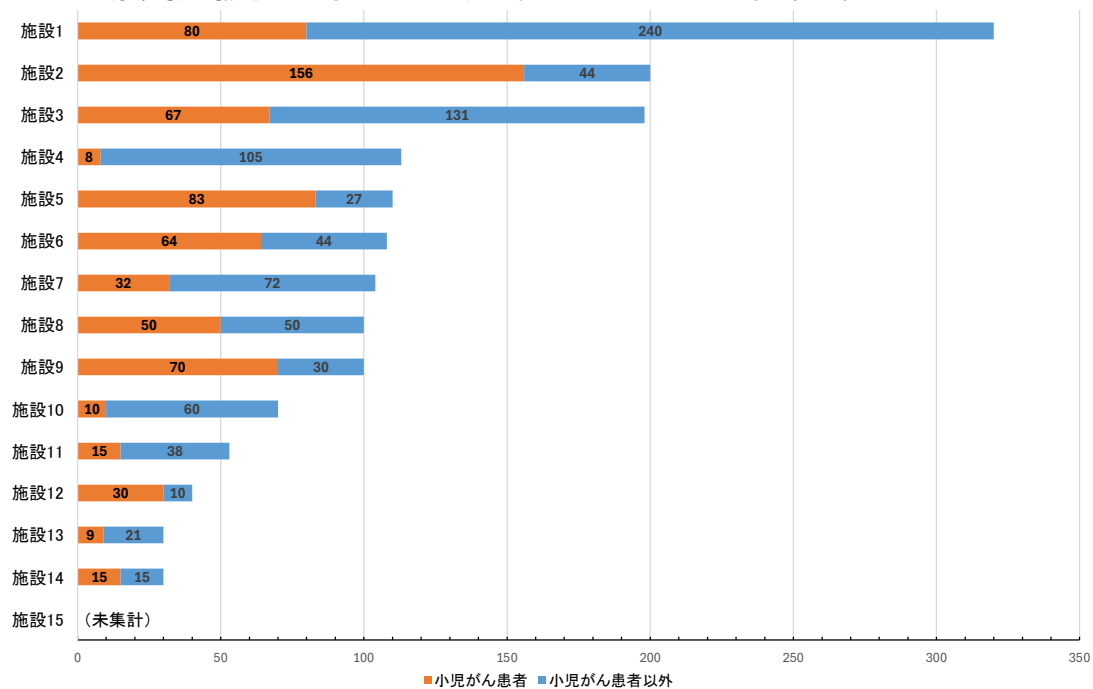


その他

小児がん相談員としての業務、寄附対応、患者支援団体との連絡調整、院内AYAがんワーキンググループやLTFUグループへの参加

イベント開催運営、支援団体（NPO法人など）との連絡窓口、寄贈に伴う現場との調整など

5) 療養支援担当者のひと月あたりの対応患者(実数)



問4.

その他、小児がん拠点病院事業についてのご意見がございましたら記載お願いいたします。

- 高校生学習支援、妊孕性温存医療のための支援、造血幹細胞移植後予防接種費用援助など、行政との連携について具体的な議論を進めるべきである。
- 心理士は小児病棟の所属ではありません。全部署の担当で、必要時の対応となります
- 人材不足(社会福祉士、CLS等)

ご協力いただき、ありがとうございました。

